

第3学年 美術科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材 ○○中文化を後輩に伝え残すための立体作品をつくろう

2 指導観

- 本題材は、中学校学習指導要領美術科の第2学年及び第3学年の内容「A表現」の(1)(ア)「対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情など心の世界をもとに、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること」を受けて設定した題材である。

自分自身の経験や思いを振り返りながら主題を設定し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができるように、目的を「○○中学校の文化を後輩に伝え残すため」とした。さらに、どうしたら主題が観る人に伝わるか考えることで客観的に自分の作品を見つめ、自己内対話を適宜行いながら主題に沿った作品を行う。そのために、紙粘土で制作した作品をタブレット上で○○中学校の風景と合成しディスプレイに映し出して展示することで多くの人に作品を観てもらえるようにする。

コロナ禍において、他学年との交流が制限される中、どのように後輩に○○中文化を継承していくのか、そもそも、○○中文化とはなにかを改めて考えることで中学校生活を見つめなおし、自分が本当に大切にしたいものは何かを明確にしていく。最上級生として、これまで○○中学校を引っ張り、今まさに生徒会にバトンを引き継ごうとしている3年生に適した題材であると考えます。

- 本学級の生徒は、1学期に自分を見つめるための自画像を描き、2学期のはじめにはクラスを見つめるために合唱コンクールのクラスの自由曲のイメージ画を描いた。立体作品としては、篆刻や木製パズルづくりを経験しているが、紙粘土を使った制作は初めてである。班交流などの場面では、意見が活発に出る明るいクラスである。その明るさで体育大会では、下級生を大いに引っ張り活躍した。しかし、日ごろの活動においては下級生とかかわる機会は少ない。彼ら自身もまた、コロナ禍において先輩とかかわる機会を制限されてきた中で、試行錯誤しながら○○中文化をつくり継承してきた。
- 本単元では、軽量紙粘土を使って、○○中文化を後輩に残し伝えていくための立体作品の制作を行い、○○中学校内の風景と作品をタブレット上で合成・加工する。最終的にどのように展示するのかを確認し、他者に観てもらおうことを強く意識して制作を行っていくことで主題を意識しながら創意工夫ができるようにしたい。

構想を練る段階では、自分が表現したい思いは何かを同心円ツールを活用することで広げ、絞りながら明確にする。作品の主題が明確になったら、インターネットの画像検索等を必要に応じて活用し、単純化・省略・協調・材料の組み合わせや既存の学習内容などの知識を意識しながらアイデアスケッチを描く。

立体作品制作の段階では、軽量粘土の特長を確認し、主題を振り返りながら、どのようにしたら自分の思いを形にできるか試行錯誤・創意工夫しながら思いを形にしていく。

立体作品が完成したら後輩に見せるために写真に撮り、背景として○○中学校の風景と合成・加工する。作品と背景の関係を考えることで、主題を再度振り返るとともに、主題に照らしてそれぞれで判断しながら既存の学習内容を活用できるようにしたい。

本単元を通して、どのような思いを表現したいのか、主題を振り返り、見直ししながら制作を行い、自分が作品に込めた思い、また、その思いを表現するためにした工夫を生徒が自分自身の言葉で明確に述べるようにしたい。

3 目標

- 学習した紙粘土の特長や既存の学習内容などの知識を作品の制作に生かすことができる。
(知識及び技能)
- 自らの経験や思いから主題を設定し、観る人に主題を伝えるにはどうすればよいか考えながら、創意工夫して表現できる。
(思考力、判断力、表現力等)
- 自ら主題を設定し、その主題を振り返りながら意欲的に制作に取り組もうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

4 指導計画（本時7/8時間）

次	時間	学習活動・内容	・ねらいと○手立て	評価の観点（方法）
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ・伝え残したい○○中文化について考える。 (1) ○○中にはどのような文化があるか。 (2) ○○中の文化を伝え残していくために、自分たちには何ができるか。 (3) イメージマップを使い、自分が伝え残したい○○中文化について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の中から主題が設定できるようにする。 ○様々な○○中文化が出るようにするために「ロイロノート」に同心円ツールを張り付けた班ごとの共有ノートを用意する。 ○他の班の考えも見ることができるようにするために「ロイロノート」の提出箱を共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの経験や思いから主題を設定することができる。（「ロイロノート」）
二	1	<ul style="list-style-type: none"> ・作品のアイデアスケッチを行う。 (1) 様々な立体作品を鑑賞し、その特徴と工夫について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・単純化 ・省略 ・協調 ・材料の組み合わせ (2) イメージマップをもとに作品のアイデアスケッチを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主題を明確にしながらか作品の構想を練ることができるようにする。 ○クラスで座標軸チャートに立体作品の分類ができるようにするために、「ロイロノート」の共有ノートを使う。 ○他の人の考えも見ることができるようにするために「ロイロノート」の提出箱を共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主題を振り返りながら意欲的に制作に取り組むことができる（「ロイロノート」アイデアスケッチ・様相観察）
三	3	<ul style="list-style-type: none"> ・主題を振り返りながらアイデアスケッチをもとに紙粘土や用意した材料で作品を制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主題を意識しながら創意工夫して制作できるようにする。 ○必要に応じてタブレットで画像等を検索できるようにする。 ○幅広く構想したものを表現できるように様々な材料を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習した紙粘土の特長や既存の学習内容などの知識を作品の制作に生かすことができる。（作品）
四	3	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を写真に撮り、校内の風景と合成する。 (1) 作品の写真を撮り作品に込めた思い・工夫をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を観る人を意識することで、自身の作品を見直し、より主題が伝わる工夫ができるようにする。 ○「ペイント3D」の使い方がわかるように使い方をテレビ画面で説明する。 	
	本時第四次2/3	<ul style="list-style-type: none"> (2) 作品の背景として○○中学校の風景写真を合成しより主題が観る人に伝わるように加工する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主題を明確にしながらか創意工夫できるように、これまでの「ロイロノート」を見ることができるようにしておく。 ○画像が見やすいようにディスプレイに画像を映す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観る人に主題を伝えるにはどうすればよいか考えながら、創意工夫して表現できる。（画像「ロイロノート」）
		<ul style="list-style-type: none"> (3) クラスで相互鑑賞を行い互いが作品に込めた思い・工夫を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの作品をしっかりと鑑賞できるようにプロジェクターで作品を投影する。 	

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、〇〇中文化とはなにか、そして、〇〇中文化を後輩に伝え残すためには何ができるかを考え、それぞれが伝え残したい〇〇中文化を表現した立体作品を紙粘土で制作している。本時では、後輩が観る場面を具体的に想定しながら作品の背景に学校の風景を合成する。観る人を意識しながら自身の作品を振り返り、背景をどのようにしたら作品に込めた思いを伝えることができるか考えさせたい。

(2) 本時の主眼

背景をどのようにしたら作品の主題を観る人に伝えられるかを考え、既存の知識や経験をもとに表現につなげることができる。

(3) ICT活用 の場・目的 つかむ / さぐる・ふかめる / 見つめ直す

問題の焦点化・共有化 / 解決の見通し / 情報の収集・選択 / 比較・分類 / 一体化・体系化 / 学びの自覚化 / その他(表現)

(4) 準備 タブレット・制作した作品・テレビ・ディスプレイ・タッチペン

(5) 展開

段階	学習活動・学習内容	具体的な支援	評価の観点(方法)	配時
つかむ / さぐる ・ ふかめる / 見つめ直す	1 背景で伝わるイメージが変わることを確認するために、イメージに合う Teams の背景を選ぶ。	・イメージしやすくするために Teams の会議の背景を実際に選ばせる。		5
	めあて 思いが伝わるように作品の背景を工夫しよう。			/
	2 主題が観る人により伝わるように作品の背景として〇〇中学校の風景写真を合成・加工する。 ・明度の調整 ・色の調整 ・影や人物などの描き込み	・映像を安全に使うために写真を使用するときの注意点を確認する。 ・表現に生かすことができるように既存の知識を確認する。 ・「ペイント3D」の使い方がわかるようにテレビ画面に操作の仕方を映す。 ・主題を明確にししながら創意工夫できるように、これまでの「ロイロノート」を見ることができるようしておく。	○観る人に主題を伝えるにはどうすればよいか考えながら、創意工夫して表現できる。 (画像・「ロイロノート」)	20
	3 合成加工した画像を見ながら班で作品の交流を行い、自分の思いや工夫を伝えるとともに、互いの表現の工夫を認め合い、感想とアドバイスを記入する。 ・発表、質疑応答計2分 ・感想とアドバイス記入1分	・画像が見やすいようにディスプレイに画像を映す。 ・目的をもって作品の鑑賞ができるように感想とアドバイスを書く付箋を「ロイロノート」に用意する。		15
	4 作品交流での気づきを今後の制作に生かすために本時のまとめを行う。 (1)「ロイロノート」で振り返りを行い、提出箱に提出する。 (2)気づきを発表、または、「ロイロノート」の提出箱を見ることで共有する。	・振り返りの視点が明確になるような付箋を「ロイロノート」上に用意する。 ・学びを共有するために、「ロイロノート」の提出箱を共有状態にする。	○作品交流での気づきを今後の作品制作に生かそうとすることができているか。(発表・「ロイロノート」)	10
まとめ 主題に照らして、既存の学習内容などを使い創意工夫することで観る人に思いを伝えることができる。				
5	次時の見通しを持つ。			